



発行日：平成 26 年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 23 回海部会 WG を開催しました！

11 月 19 日に第 23 回海部会 WG を開催し、三河湾干潟造成に向けた検討をはじめ、次回 WG や海部会の今後のスケジュールなどについて話し合いました。



日時：H26 年 11 月 19 日（水） 14:00～16:00
場所：西尾市役所 会議棟 2F 第 4 会議室
参加者：20 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1：話し合いで決まったこと



■三河湾干潟造成に向けた検討について

- ・愛知県の農林水産部水産課の事業として、矢作ダムの砂を使って西浦人工干潟の土壌改善を行う。2月頃に矢作ダムに砂の搬出・運搬をしてもらい、仮置きして7月に県が試験造成し、1年後の生物の変化をモニタリングする。
- ・愛知県の事業とは別に、矢作ダムの砂を活用し、矢作川流域圏のシンボリックな場所として、直接調査などができる干潟を東幡豆海岸につくる。

■次回のWGについて

- ・次回のWGは、12月17日に三河湾の海底ゴミや生き物調査の検討と、矢作ダムの砂を活用した東幡豆海岸の試験的な干潟造成に向けた関係機関との調整結果の情報共有などを行う。

■海部会の今後のスケジュールについて

- ・海の地域部会は、平成27年の1月14日（火）の14時から2時間程度開催する。

2：愛知県による西浦人工干潟の土壌改善に向けた情報提供



愛知県農林水産部水産課の蒲原課長補佐より、矢作ダムの堆積砂を使った西浦人工干潟の土壌改善の計画について、情報提供をしていただいた。

- ・西浦人工干潟は、中山水道航路の浚渫砂のため粒径が細かい。
- ・昨年度、流域圏懇談会で干潟・浅場の調査を行ったが、粒径の種類に富んでいる東幡豆の方が生物の種類も豊富でアサリもいた。一方、西浦の方は細かい粒径に合った生物はいたが、生物の種類が少なかった。
- ・そこで、より荒目の砂や小石、礫を投入して、状況の変化を検証するための試験を計画した。
- ・砂は、矢作ダム管理所から提供していただくが、非出水期にしか取り出せないなので、この冬2月くらいに搬出して西浦に運搬していただく。仮置きして来年7月に愛知県水産課が試験造成を行い、造成1年後の生物などを調査する。
- ・試験造成では20m×20mの範囲にダム堆積砂を入れるが、厚みを10cm、20cm、30cmと変えて、どの程度の少ない量で効果が発現するかを検証する。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 眞田

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

■三河湾干潟造成に向けた検討について

＜愛知県の取組み＞

- 何m³くらい矢作ダムの砂を入れるのか。
 - ▶ 300m³くらいになる。(蒲原)
- 粒径は選別しないのか。
 - ▶ 選別せずにそのまま入れる。(蒲原)
- 7月に造成すると春のアサリの産卵期を逃すが問題ないか。(石川)
 - ▶ 手続き上最短の工程であり、秋の産卵期に稚貝の自然発生をみる。(蒲原)
- 掘ってダムの砂を入れ込むのか。
 - ▶ ダムの砂を乗せる感じで入れるが、できれば少し混ぜたい。(蒲原)
- 干潟の環境がよくなる見込みはあるのか。
 - ▶ 水産省の調査結果などを参考に、様々な粒径からなるダムの砂を粒径の細かい既存の中山水道の浚渫砂の上に入れて、どのような効果が出るか実証したい。(鈴木)
- 便益検討につなげる取組みは考えているか。(西原)
 - ▶ 代替法で効果を金銭換算して、社会的便益を試算して費用とのバランスをみたい。(鈴木)

＜流域圏での取組み＞

- 矢作ダムの砂をダンブ一杯もらえる約束はできている。我々としては、県の事業とは別に、流域圏の海部会のシンボリックな干潟として、直接調査などができる場所をつくったほうが対比もできる。(青木)
 - ▶ 流域圏として実施することでよい。(全員)
- トンボロ干潟の前島に近い西側付近に砂を入れるとよい。水深2.5mから3m程度でアサリの繁殖に丁度よい場所である。(石川)
- 山部会に来てもらい見てもらうなどアピールしたい。せっくなので生物調査もそこでやりたい。(青木)
- 矢作ダムは東幡豆漁港までダムの砂を陸送してくれるが、そこから先の運搬方法が問題。(西原)
 - ▶ 満潮の時に船を寄せてクレーンなどで砂を入れる方法が考えられる。ダンブや耕運機は干潟に埋まるので不適。(石川)
 - ▶ 山・川・海の部会メンバーが集まって、ポートやバケツリレーなどで砂を入れたい。重機で運びつつ、人力でも運んで取組みをアピールしたい。(青木)



■次回のWG

- 次回のWGは12月17日に海底ゴミや生き物調査についての検討と、矢作ダムや関係機関との話し合いの結果報告などを予定する。(西原)
- 三河湾の28地点で底引き調査を実施した。回収したゴミや魚貝類などをとりまとめ中、次回のWGで詳細を報告したい。(山田)
- ゴミ調査のきっかけは何か。(国立)
 - ▶ 底引きでどのくらいの割合で不純物が混入するかを把握するために、水産試験場の調査の一環として行っている。(山田)

■海部会の今後のスケジュール

- 海の地域部会の日程を確定したい。川の地域部会が開催される1月16日と19日の週を除いて、午後の2時間くらいで決めたい。(西原)
- 1月14日(水)の14時から2時間かどうか。(西原)
 - ▶ 異論ない。(全員)

■その他報告

- 11月11日(火)に名古屋国際会議場で開催された「持続的な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」併催イベントのESD交流セミナーで、三つの優良事例の一つとして、矢作川流域圏懇談会の取組みを報告してきた。特に細かい質問はなかったが、外国人の方も含めて様々な方が来場されていたので良いPRになった。(西原)

ふりかえり

会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。



- **よかったと思うこと**：ダム砂覆砂が具体的に検討できた。/干潟造成が動き出したようで良かった。/干潟造成の件が2つ進み始めたこと。
- **今年度取り組んでいきたい活動など**：別水域だが、諏訪湖でシジミ類復活の気運が高まっており、時々呼ばれるので面白い情報があれば提供したい。
- **質問など**：貧酸素水塊の三次元情報はないか？三河湾の硫化水素の情報があれば知りたい。

今後のスケジュール(予定)



次回 海部会第24回WGを12月17日(水)に開催します

内容は、海底ゴミや生き物調査についての検討などについて話し合う予定です。

